

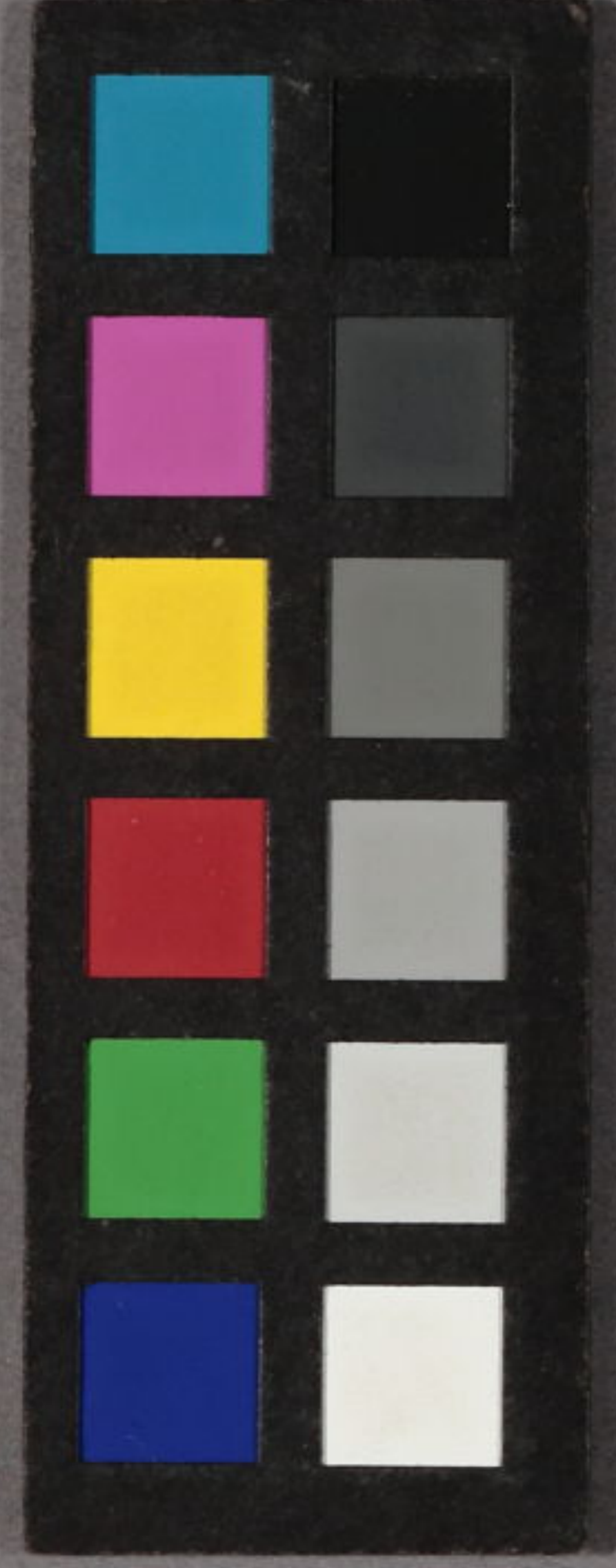
新秋  
宴語

辰巳之月

上



^ 13  
3168  
1



門 へ 13  
3168  
巻 /

辰巳乃月

山東庵京傳先生の戲作者申真の

先祖に物の本繪草紙の著者年

く母流行するも皆いふ羽乃余光と下

予も童其出の甲より竹より春

の目長の既びに京傳物と通給の繪

昭和十年  
六月二十四日  
博末

草紙くさし視しるが樂たのしみしむにや。物ものは古ふるきを  
 見みるや。小こ本ほんの字あざ々あざしく人情にんじやう世よ態たい多おほく  
 せし趣おもむき向むかむ。亦またあき物ものと改あらた重ちゆうし。夫それのよ讀よ  
 む習なたる。小こ幡はた小こ平へい次じ稿こう始はじめくとも。安やす方かた  
 安やすのゆ。新あらた奇き妙みやく柔あへ婦むすめ書かきは。きらめく戲げ  
 墨すみに光ひかりを引ひく。隠かくれもあはれ。著ちやく作さくの  
 一  
 一

名家めいけ一世いつせい乃すなは新あらた編へんのぞくも。其その世よ也なり。  
 申まをに無な書まの格かく別べつのぞくも。其その世よ也なり。  
 亦またまじとも。當いま時ときハ聊いささ流りゆう行かうに。後おくれにもも  
 事ことなると。然しか少すく。時ときに合あはせ。上かみ中なか下しも三さん冊さつ物もの  
 下した家け本ほんを。讀よむ。数かずがたひとの御ご筆ひつ文ぶん  
 也なり。何なにせよ。早はや速すみ。増ぞう補ふ乃すなは新あらた敷しき今いまも



静社  
英一画

三

むの〜もさあね生。男おれ情と。月の  
 系くもらね翫。宿の。眼を走のびく。  
 意はち何ふね。いろはに源出。鳴るの  
 海とや。筑ひたまふん。

丁酉年  
 仲秋  
 狂訓亭主人  
 鳥永春水誌

ロノ二





新秋喜語辰巳月上

江戸

山東京傳旧作  
為永春水増補

第一回

妹の郎の花の多種の物どおりの露下うもあけき  
 る久見えねどはく何所う知らねども縁目買入  
 の秋の七草産のけしきの袂けきくもあつる  
 若菜の種のもろを飯まきくもあつる









三正院の縁の糸をぬき入道よりしては  
また、そのついでに、同じ名前の衆人あり  
ハナ、その一、五名あり、そのうち、その一、

漢の金のお蔵の糸をぬき入道よりしては  
その金のお蔵の糸をぬき入道よりしては  
その金のお蔵の糸をぬき入道よりしては  
その金のお蔵の糸をぬき入道よりしては

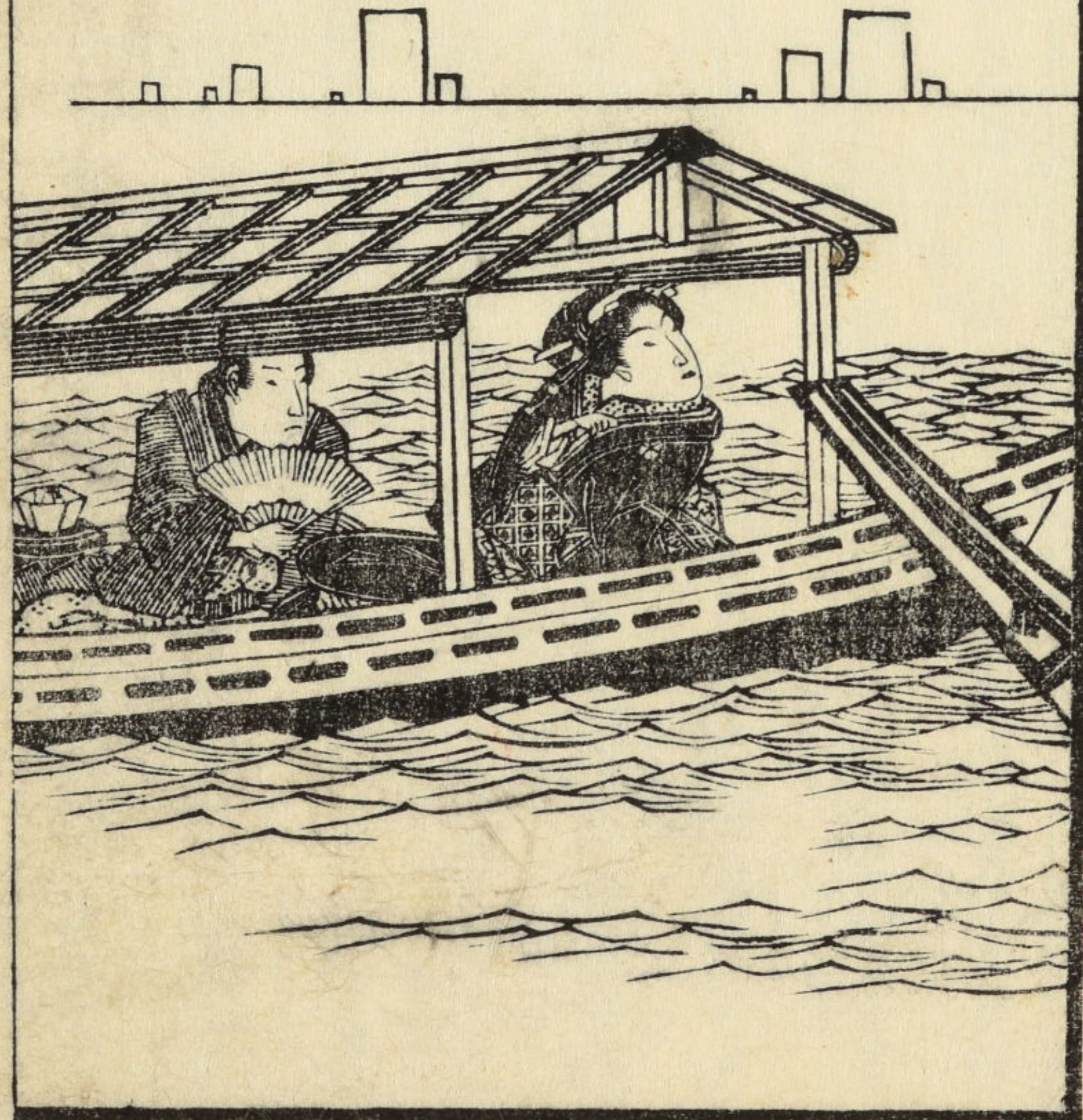
漢の金のお蔵の糸をぬき入道よりしては

その金のお蔵の糸をぬき入道よりしては  
その金のお蔵の糸をぬき入道よりしては  
その金のお蔵の糸をぬき入道よりしては  
その金のお蔵の糸をぬき入道よりしては

お前の懐中へうき書ぐりまはぬの糸よあつてあど  
 う澄きよりのちまののどねそくまの文  
 るれ中も大方うらひぐさこのが何れも志れ  
 らまのひと書くあが何れようひづりあ  
 だらモウく私や出くあつてあつてあ  
 と落しあがろ免てもあさきんあつてもあつてあ  
 ようくあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 一書もさぞうらひくうらひくうらひくうらひく

仕方のあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 のあつてもあつてもあつてもあつてもあつてあ  
 見たりあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 けり中権くあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 へ送るあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 くさく酒は酔ひ紛きよ夏思を酒の初め  
 めあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 己も何したのさすあつてあつてあつてあつてあ

初秋の  
海上  
送舟



明和三年





榮枯盛衰さるべの氷の流まて人の身もうつら  
 変りまじく彼お蝶が蝶み希との後みくらの水は清と  
 見え中まじく實まを通に頼母しき世果ふゆり  
 辰己よろうとどかろうくぬ二個の中後くよみく  
 佳境とせんうこまよりのあづくく人情の倫典  
 悦んまよ林のまよあつこ大川よ流む一艘の船在  
 客と思われく三人連 **船** **十八** **團三** 沖の方を見まら  
 船で船けくまご今まごめてもねふ大まの山を築

くらりだのくくねく捨垣もこりしてくると  
 大きれめんやアねく **船** けお船くん大  
 ぶんつくとばぐあつをねく茶くんまごめ  
 こまごめま成くくくひやまごめつら  
 やア一皮くつてく **船** おちひけくつら  
 うつどまごめ **船** あんはりてりつぐく  
 うつあがまやぐつりやせん **船** まくくつら  
 くらもまよるやくと南ごくまごめくでくね

うねうねある靴のまけはらううまのッ十音  
ぶのッウー二四八ウハッハッウウウウウウウ  
わげうせううううののめくまぶう志和とたの  
くしきハ  
大破うの 十布 アレ 箱 うううううう 物 ホニ  
意 ううううううううううううううううう  
十 又うううううう 十 船ハ志んけくううううううう  
うううううううううう 面 の船 ライ おううううううう  
久 繩 町 ミ ア 面 の船 志 づ ふ ま 久 ア

やうううもでんぶ 箱 ぶううううう 換 念 は じ  
Tの舟なるののうううううううううう 女 一人茶屋の娘うんうううううう ア 志 ア 志  
き 意 うううう 公 学 の 娘 ア 志 ア 志  
やうに茶屋えんとくやうサ 十 ころやアをまじご  
箱 はんごうぞねんらび の おう お づ あ の 久  
アイは 新 市 茶 の ま ぐ イ タ コ  
志子屋 お ず ア 志 ア 志 ア 志 ア 志 ア 志 ア 志 ア 志 ア 志 ア 志 ア 志  
かく天 ト 志 ウ 志 ウ 志 ウ 志 ウ 志 ウ 志 ウ 志 ウ 志 ウ 志 ウ 志 ウ 志

十ころが大破乃新市茶とりのつ船そろうサ  
しんいちを  
 船この坂戸屋のうら糸の次希さんさき  
さうと  
 船いざござりやしいららざね久ころ乃  
 船いせもさぞそぞ死さざりて船今ふころ  
 してあつのう船中のたござんかこのの付茶をうら  
ひそあせとまごふてきりて火さきる  
 久モシ松箱の引出ふりくらござりやれ十  
まうまて  
 フット一かうらト大さ糸のやふ引出ぬわづれぬま  
うらに仙臺通室がまの  
 ほんらぬまがし出せうらころアころころで船  
ほくらぬまがし出せうら  
 船

うらと上やう船引出しの中うらぬ紙引うん  
わとと  
 船とまを破屋をそぞぬきなまの戸まめ  
ゆち  
 船まげよりコウおらぬげおまげまのナアぞり  
 うらぬ久ホニそのぬ紙とげののぞりけ  
 船なまさ中うらむらぬ屋のうら人サ大いそらんテ  
のちどりのやわら  
ふり市場の手うまきれ 十大いその振市  
ふり  
 船茶とりのつとらぶまははそるにまら  
 船いざご船よららららめだろサ十ころの天  
ち



智屋と申すのいざむね **船** 大ちやとのみア  
 わもア下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 そ **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 ね **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 き **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 モ **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 の **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下

七

山田のりさのいかに **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 堀 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 志 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 船 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 の **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 日 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 あ **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 ぐ **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下  
 女 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下 **船** 下



乃曰天とてつららね破井とてよのきんのか  
つくわね松ぼけくりに縄町乃てかかれり  
くり糸まざるセツヤとてトウくもるあえわとよりえ  
ちかぬのせのせだある又そのわとよりおろすく二人松ぼ  
けとてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきり  
松ぼけとてかたが志の松ぼけ一人の松ぼ  
わたりとてかたが志の松ぼけ一人の松ぼ  
すだり ト ねひるきん今あつ舟なるせあす  
へはもて松頭松ぼけのう ト ねよくあつ  
があつた大いそあつてきりてきりてきりてきりてきりて

やが下トの密ミとてねがわのたつらつとて  
と舟乃きやとてきりてきりてきりてきりて  
ト女希松なとてきりてきりてきりてきりて  
くしきとてきりてきりてきりてきりてきりて  
松ぼけおつとかけさせてきりてきりてきりて  
あつこのきんろつらつとてきりてきりてきりて  
くしきとてきりてきりてきりてきりてきりて  
モウ 後トふなれといふるサ松の舟とて

おきくも先入はまらなくもたや。さ  
 らのの<sup>つづ</sup>中<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>文<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>  
 東人のもの通<sup>つづ</sup>と<sup>せん</sup>ま<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>  
 の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>  
 せいの<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>  
 て<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>  
 宇治<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>  
 物<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>

であるもれ<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>  
 の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>

新秋<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>  
 語<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>の<sup>せん</sup>

